

昨日紹介した「夜光江の島立体模型」に続いて、「光る星座早見盤」も試作してみました。通常のコピーや印刷で、恒星や恒星名が光る星座早見盤を作るのは困難です。しかし、3D プリンター用の「蓄光フィラメント」を使うと、立体物の一部分だけを光らせることができます。

今回は2つの円盤を組み合わせて試作しました。上の円盤には、2時間ごとの時刻と関東地方の視野の窓、下の円盤には1月～12月の月と、星図を配置しました。この早見盤は直径が10cm程度なので、情報量は最低限にしました。あまり盛り込み過ぎると、小さな文字がつぶれてしまうのです。星図には星座名はほとんど書かず、一等星名と「夏の三角形」「冬の三角形」「ペガサス座 (秋の大窓)」「北斗七星」「カシオペア」だけにしました。

光に10秒ほど当てて、真っ暗な場所で見ると見事に光って見え、30分以上光り続けていました。ポケットにも入るので、実際の夜間の星空観望に役立つかも知れませんね。

